

オープンダイアログの基礎、リフレクティング・プロセスを学ぶ その2

コーディネイタ/ファシリテータ: 功久(いさく)

★ 「オープンダイアログ」とは統合失調症なるものに対する方法としてフィンランドの過疎地域で生まれ、抗精神病薬や支援体制に対する概念を大きく変え、これまでの常識を覆えようとしている方法であり、考え方です。そこには専門家の在り方を根底から見直させる発想があり、精神医療の焔を超えて、大きく注目されて来ています。精神科医療や福祉をはるかに超える可能性をもっているからです。

しかし、これが日本の医療や福祉の中に入るには極めて大きな困難がありそうです。外からのハード(制度上)における抵抗はもちろん大きいですが、同時に受け入れようとする人やグループのなかにおけるソフトの文化的抵抗もそれ以上でしょう。創設者の一人であるヤーコ・セイラクはオープンダイアログとは“治療法というより political thing だ”と言っています。しかし、日本では「政治」と言い出したら、それだけで多くの人々が引いてしまいます。これは一体なぜでしょう？ このことこそ文化的抵抗と深くつながっています。

★ こうしたことを心に留めておきながら、オープンダイアログの実際のなかで基軸として使われているリフレクティング・プロセスを、まずは学びましょう。ナラティブ・アプローチの家族療法家であったノルウェーのトム・アンデルセンが始めたリフレクティングはシンプルな方法ですが、小手先で使える技法といったものではなく、その背後には近代の専門家支配というイデオロギーを超えんとする価値観や理念が含まれてもいます。オープンダイアログの実践には、リフレクティングの考え方とプロセスがあって初めて、多くのことが展開していることが分かります。

日時：2016年1月14日 10時～17時半

会場：立命館大学衣笠キャンパス

★ 人数に制限があり、申し込みが必要です

申し込みと問い合わせ先：nonisac@yk.commufa.jp

参加費：会員 2,000 円、非会員 4,000 円、学生 1,500 円 社会人学生/院生 2,500 円

【注意】 日本臨床心理学会は、対話を大切にしようという精神をもって来ましたが、このワークショップでは、この学会の組織や研修のあり方についての問題は扱いませんので、それを承知したうえで参加くださいますよう。